

西之内町地車新調 実行委員会通信

2022 年
1 月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
072・444・7712

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介（9）

命がけの救出

大寒の候、西之内町の皆様におかれましては、ご隆盛のこととお慶び申し上げます。年始より、新型コロナウイルスの感染が急激に拡大し、落ち着かない日々が続いております。くれぐれもご自愛くださいませ。

今回も新調地車の彫り物の場面について少しご紹介します。『難波戦記』における大坂夏の陣では、大坂城が徳川方に包囲され落城します。その落城前、家康は豊臣秀頼に嫁いだ千姫の救出を家臣に命じます。

千姫は、二代將軍徳川秀忠と、お江の長女で、家康の孫娘です。家康の「豊臣家に対する宥和政策」の一環である「政略結婚」によって、千姫は秀頼と結婚します。その時、二人は十歳と六歳の子どもでした。この結婚は秀頼の将来を心配した秀吉の遺言によるとも言われています。母親同士が姉妹ということもあり、この結婚には様々

な人物が関与したと考えられます。

千姫の救出の命を受け、先頭に立って果敢にその命を果たしたのが、坂崎直盛です。直盛は、猪突猛進・愚直で直情径行型の人物だったようで、馬に乗って茶臼山の家康の陣を飛び出し、劫火に包まれた大坂城を目指しました。城中は阿鼻叫喚の地獄絵図です。腰元たちは刺し違えて果て、男たちはそれぞれ喉を突いたり腹を切ったりして息絶えています。直盛は炎に包まれ



千姫

た柱が倒れる中をどんどん奥へ進み、ようやく経机に向かつて念仏を唱えている千姫を發見します。そして千姫を抱きかかえて必死で炎の中を駆け抜けます。この時に頬に火傷を負い、目も当てられぬほど醜い面相になったようです。

千姫が豊臣方にとってお家存続を嘆願するための人質であつたことは確かです。大野修理は、秀頼と淀君の助命嘆願を千姫の救出と引き換えに徳川方に願ひ出ております。実際の救出には、刑部卿局という人物も関与しており、淀君たちが落城前に立てこもっていた曲輪から救出したとも伝わっております。落城の最中の出来事で確実なことは不明ですが、直盛が千姫を背負い、城を出たという物語が『難波戦記』で伝わっております。

また、このお話には後日談があります。家康は直盛に対して、千姫救出の恩賞として千姫を嫁にやると言つてしまつたのです。しかし、千姫は大坂か

ら江戸へ送り届けられる途中の船の中で、桑名藩主本多忠刻に一目惚れしてしまします。当時千姫は十八歳。聡明で美貌の姫君で、忠刻は十九歳で眉目秀麗であつたと言われています。一六一六年、忠刻が播磨姫路新田藩に移封されるのに合わせて、千姫が忠刻に輿入れします。彼女にしてみれば、直盛は自分を助け出してくれた命の恩人とはいえ、先の夫である秀頼とは比較にならないほど格下の家臣であり、火傷を負つた容貌のこともあつたかもしれませんが、いざ結婚となると到底彼女のプライドが許さなかつたのでしょう。これに怒つた直盛は、輿入れ行列を襲つて千姫を奪う計画を立てますが、この計画を事前に察知した徳川幕府によって屋敷を取り囲まれます。そのため直盛の家臣は彼を殺害し、自害したように見せかけますが、結局坂崎家は「改易処分（お家断絶）」となります。徳川家との縁組という政略もあり、欲がこの

ような結果を招いたのかもしれないが、大阪夏の陣では、直盛の命がけの救出であったことは、確かであります。

新調だんじりでは、曲輪内にて自害することを決意する淀君と、救出され大坂城より今まきに出ようとする千姫の緊迫感のある様子を、時間的なずれを表現する異時同図としております。また、大坂城の一部が落城する場面も緊迫感のある雰囲気表現されております。ご期待ください。

新調地車の彫り物

進捗報告

〓色付け・武具の取り付け〓

昨年末から今年に入り見送り下連子と、腰周り（縁葛・大連子・小連子）の仕上げ作業が完了し、甲冑や馬の装飾の色付け、槍や弓の武具の取り付けが進んでおります。色付けをするだけでも、彫刻された人物の表情が変化し、まさに命を吹き込んでいく感じが感じられます。この部分は、色付け完了後、植山工務店さんに納品され、だんじり本体が組み合がえると同時に組み込まれていきます。まだ完成までは先のことであります。ですが、部分的には完成しております。

その他、今年に入り拵合いの下絵にとりかかる予定です。拵合い部分は、兵主神社の伝説や祭神の絵巻物から検討し、この地域の昔話や文化財に関する物を題材にしたもので進める予定です。

荒彫りの完了している部分では、素削り、刻みの作業に入ります。いよいよ土呂幕、大脇、脇障

子といった迫力のある部分に入っていきます。部材の厚み、幅、高さを利用して奥行きのある構図となっており、仕上げにも時間がかかることと思われます。

また、だんじりの細部についても少し紹介します。犬勾欄という部分を御存じでしょうか。とある本では、だんじりの構造がもともと二階建てのものであったことを物語るものであり、その名残であると明記しております。なぜ、二階建て構造であるかは、現段階では説明できませんが、わかり次第この『新調通信』を通じてお答えできればと思います。その犬勾欄ですが、土呂幕と見送り場面の季節に合わせたもので検討しております。場面の一部として人物なども検討しましたが、だんじりの構造としての由来に沿った部分として進めてまいります。季節のもの以外にも、各場面の登場人物に由来したものも一部取り入れることも検討しております。その人物とは、現在「何々封じ」といってお祀りされているものです。完成時

にご覧いただきたい部分であります。



山本師工房
(Twitterより引用)

新調委員の独り言

あけましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。いよいよ令和四年がスタートしました。完成までのスケジュールが押し迫っておりますが、気持ち空回りしないように委員会メンバーも一丸となり頑張ろうと思います。コロナの収束が不完全なところ、新調に関しても滞っている部分があり、今後町内の皆様や町会並びに各種団体のご理解を得て進めていく必要があると思います。

今年は現だんじりの最後の祭礼となります。昭和十一年から西之内町で曳行され様々な思い入れがあります。疫病も収まり今年の祭礼が完全な状況で出来ることを願います。

板崎直盛

